日本共産党あきる野市委員会発行

# あきる野民報

発行責任者/松平重幸　TEL＆FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2008.4.27　No.485（毎月２回発行）

日本共産党あきる野市委員会はつぎの見解を発表しました。

# 後期高齢者医療制度は

# 制度の中止撤回を！

４月１日より、後期高齢者医療制度が始まりました。市の窓口には電話を含め、４月以降約250件（４月14日現在）の問い合わせが来ています。制度実施前も含めると約450件もの問い合わせが殺到しています。

## こんな声　あんな声

●夫が後期高齢者になったために、被扶養者は独立することになったが保険料はいくらぐらいになるのか。誰が扶養してくれるのか。（夫75歳、妻73歳、国保加入者）

●夫婦とも後期高齢者になった。保険料が国保より３万円ほど増えそう、どうしてそうなるの。

●国保ではいままで子供の扶養になっていたが、妻とともに国保から追い出された。先行き不安。（夫婦とも75才以上）

●保険証が届いていない。

●社会保険からの切り替えの手続きはどうするのか。

●心臓、血圧などで心配を抱えている。この制度では、診療報酬に包括点数制が導入され、６千円という枠が決められるとのこと私の場合どうなるのか。

●年金の天引きも問題だが、診療報酬にも差別が持ち込まれ、必要な検査も抑制するようになるのでは。

●年金から天引きに反対。

●介護保険料は払わなくて良いのか。

●書類が多すぎて年寄りにはわからない。

●障害の認定を受けている人はどうなるのか。

●健康診査はどうなるの。

●保険料の仮徴収とはどういうことですか。

●仮徴収決定が夫婦の片方しか届かない。

●保険料が安くなったがなぜか。

●保険料が高すぎる。

●旧の保険証はどうすればよいか。

## いまこそ声を上げる時！

制度の内容が明らかになる中で、「わずかな年金からも保険料を天引きされ、受けられる医療も制限される。年寄りは早く死ねということか」と怒りの声があがっています。

75歳以上の方といえば、戦争を体験し、戦前、戦後の厳しい時代を一生懸命生き、現在の日本の繁栄を築いてこられた方々です。「長生きをしておめでとう、これからは医療費は無料でいいですよ」というのならわかります。

高齢者が長生きをして肩身が狭くなるようなこの制度は中止・撤回すべきです。国会では日本共産党をはじめ野党４党で、制度の中止撤回法案を提出しています。制度の中止撤回のために声を上げていきましょう。

# 第79回 メーデーに参加しよう！

★後期高齢者医療制度を廃止し、安心の老後を
★なくそう貧困と格差
★消費税大増税NO！
★ストップ憲法改悪
★横田米軍基地はNO！

ところ　井の頭公園・西園

■問合せは
高橋＝558-6291　増田＝550-6403
渡辺＝558-9766　松平＝558-0718
戸沢＝558-9721　山根＝550-4224
影山＝558-8282　前田＝558-7857

主催・あきる野第79回メーデー実行委員会

## 野良望

いま党が力をいれて取り組んでいる、党を語り、綱領を語る「大運動」の全都の交流集会に参加した。中でも二名の若者の発表が強い印象を与えた。▼町田市の二十三歳になる青年が真実を知れば立ち上がり、ものすごいエネルギーを発揮する経験をした民主青年同盟の活動を話し、生涯を職業革命家として生きる決意をしたこと、確信と誇りに満ちた態度と、理路整然とした発言に圧倒された▼足立区などを選挙区にした小選挙区の杉内さおり候補者は二十二歳、容姿端麗の知的な女性。党に入ることを猛烈に反対した両親を、いまでは入党させた。青年の代表として活動し、事務所のなかに青年の部屋をつくり、誰でも三百円で食事が何時でも出来るようにするなどが評判になり、青年が集まり、政治を語り、民主青年同盟が拡大されていると発言。▼青年特有の行動力と献身的な努力で、いま全都で青年運動が大きく発展していることを知らされ、深い感動を味わった一日だった。（松）

## あばらしき こどもぐらし

たばた　あずみ

ちび３歳直前、言い出したら聞きません。このごろは服の好みがうるさい。毎日気に入った服しか着ないし、気に入っていれば、それがパジャマでも着たい。「ねんねの服だよ、おかしいよ」「でもきるの」と押し問答しながら、ふと「どうしてだめなのかな」と思ってしまいました。

パジャマ＝寝るときの服だなんて、おとなが勝手に決めたこと。こどもは気に入った服を着たいだけ。…じゃぁ、着たっていいかも。もう少しすれば、日中にパジャマは変だな、と気付くこともあるでしょう。

というわけで、パジャマを着てもいいけれど、こちとら人目が気になる根性なし。「お外に行くときは、ちゃんとお洋服を着てね」などと言ってしまうのでした。（　　08.4.27）

連絡先は☎550-6674

## 「憲法まもれ」――新たな出発にむけて㉒

# 琉球布に平和を想う

草花在住　関口江利子

作家であり「9条の会」の代表世話人の一人でもある澤地久子氏が現わした『琉球布紀行』を読んだ。沖縄県奄美大島諸島を旅し、琉球の布たちそして作り手である人々の歴史と人生をひもとく物語である。そして、それは「避けようもなく沖縄戦が織り糸の一部、顔料の一部のように入りくむ物語」でもある。

――「はじめに」より――

ページをめくると、高く青い空に向って風にはためく布たちが私を魅了する。沖縄の草花や鳥たちをモチーフにした図柄や鮮やかな色使いに、亜熱帯の豊かな自然とともに暮して来た人々のやさしさや温もりが感じられる。

異国との交流の中で独自の文化を紡ぎ、幾世代にもわたって守り伝え続けて来た手仕事は、琉球の歴史の中で幾度となく消滅の危機にさらされて来た。そして、先の「沖縄戦」で家族も、家も、生きる希望も、全て焼き尽くされてしまった。

そのような辛い状況の中でも、生き残った人々によって琉球布たちは見事に甦ることが出来た。道具もなく、原料となる植物もない中で、作り手たちは過酷な仕事を成し遂げ、伝統文化を復活させたのだ。

今日、私たちが目にする琉球布たちは、琉球とそこに暮す人々の苦難の歴史を物語っている。作り手たちは、戦争によって心のよりどころを失ってしまったからこそ、琉球布に平和の願いを「染め」、「織り」込んで来たのではないだろうか。伝統文化を愛し、平和を求める心を次世代へ受け渡すために。

## 医療費は無料、教育費も大学まで無料の国
# キューバを訪問して④

野辺在住・高橋養蔵

ラテンアメリカ医科大学を訪問しました。

一万人をこえる学生が学んでいます。僻村、先住民居住区など医師がいない貧しい地区から学生たちを募集していて、出身地は、28カ国、その多くは、ラテンアメリカやアフリカの貧しい開発途上国です。学生の51％は女性。そして、六年間の研修期間中の授業料、下宿代、食費、書籍代、衣服代は、すべてキューバが負担し、一切経費がかからない。おまけに、毎月一〇〇ペソの奨学金が支給されるそうです。入学の条件は、貧しい農村の出身で25歳以下であること、卒業後、すでに医師のいる街ではなく、貧しい農山村や先住民の居住地で働くことを誓うことだそうです。

訪問視察も終りに近づき観光地、バラデロに向うバスの窓から、ロシアのチェルノブイリの被災者を治療しているサナトリュウムを見ました。延べ二二〇〇〇人〈うち子供一八五一六人〉を治療し、もちろん無料です。人間の命を大切にする人道主義に感心しました。

（つづく）

## 国民救援会がお花見・賑やかに

秋川流域支部

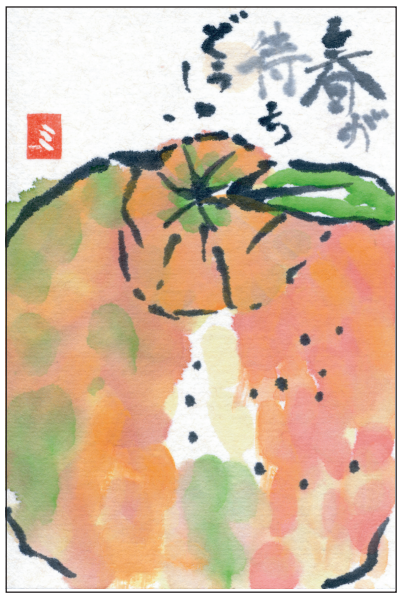
日本国民救援会秋川流域支部は4月5日、草花公園の平井川川岸でお花見。気持ちよく晴れわたった空に桜も満開、絶好の日和でした。参加者は21名。

バーベキューのほか、参加者からの差し入れもたくさん。「痴漢冤罪事件など、捜査と裁判がひどすぎる。どうしてもただしたい」など、みんなの思いを出し合い懇談しました。

アコーディオンやハーモニカの伴奏でうたごえを響かせ、最後は手をつないで輪をつくり「がんばろう」を合唱。元気のわく楽しいつどいとなりました。

## 川柳

**財界をへこまし志位さん男あげ**　西川昇
**厚労省喜寿の前に寨寿つくり**　西川昇
**年金の天引きだけは間違わず**　松籟坊
**他はダメ天引き得意厚労省**　松籟坊




絵手紙／栗原美也さん・乙津在住

## 歴史探訪

第65回　唐沢武一さんに聞く

# 昔の二宮⑦

「今では五日市街道の商店街の本宿通りが中心となっていますが、昔の二宮は私の家から石川理髪店の前を通り、西へ向かう北宿通りが中心でした。私の隣に伊勢屋という屋号の家があり、江戸時代に伊勢から移り住んだ人です。昔から伊勢神宮のお札をこの辺り一帯に配っていて今でも続いています。若い頃、石川理髪店の所に瞽女宿がありました。東北から遥々来たのでしょうか、この宿に泊って四・五人並んで歩いていたのを見た事があります。少し西へ行くと私と同じ姓の唐沢という家があり、造り酒屋をしていましたが、この酒屋が廃業し、その跡地に早川さんという醤油屋ができました。昭和五十年頃まで続いていたのですが、この醤油屋も廃業し、そこで使っていた大樽を譲り受けたのが玉泉寺です。現在、大樽の中に平和観音を祀っていますので、皆さんもよく知っていると思います。

当時の五日市街道は狭く今とは随分変っていました。《牛浜の渡し》から直線で本宿通りへ繋がり、長谷川商店前を左折、二宮神社から普門寺前をとおり、五日市へ向かいました。二宮神社と玉泉寺の間は切り通しとなって上野原台地（清水外科周辺）へ通じていました。玉泉寺から菊屋・長谷川商店の周辺もドブ川を埋めた土地ですから、数年前までは地下水がよく溢れ出たものです。」

草花　木崎秀治

## 俳句

春耕や均せし土を崔ゆく　（つや）
風光る釣師の膝の波頭　（淑子）
山茱萸の米粒ほどの新芽かな　（静子）
蕗の薹ぽっこりと出て畦の道　（るり子）
風さやかそろそろ咲くか木瓜の花　（やす子）
春慶の電車になだれ高校生　（かほる）
啓蟄や首だす亀と目の合いて　（照代）
観梅や親の手を引く寒山寺　（和恵）
車椅子老いの手に押す花の下　（秀治）